

わたしたちの未来を選ぶ選挙

教頭 神田 敏宏

1月に入り、県内各地で成人式が行われました。富山県内では9,985名が、高岡市では1,508名が成人を迎えました。今までは、20歳になれば選挙権が与えられました。しかし、今年の参議院選挙からは選挙権が18歳以上に引き下げられます。そのため、高校では特に主権者教育（住民と政治の関わり）の重要さが指摘されています。小学校の6年生においては、社会科の学習で、

- 1 国会などの議会政治や国会議員などの選挙を取り上げ、選挙は国民や住民の代表者を選出する大切な仕組みであること
- 2 国民の代表者として選出された国会議員は国民生活の安定と向上に努めなければならないこと
- 3 国民や住民は代表者を選出するため、選挙権を正しく行使することが大切であることを考えることについて学んでいます。

さて、先日、高岡市選挙管理委員会から来ていただき、本校で6年生対象の「選挙に関する出前授業」が行われました。選挙のしくみや高岡市議会、過去の投票率などを学びました。「東五位小学校に転校生が3人やってきた。東五位小学校の仲間になれたのに、すぐに卒業。せっかくだし、卒業する前に6年生のみんなと思い出づくりがしたい」という設定で、3人の提案理由（利長くん：高岡のグルメを集めてみんなで食事会をしたい。家持くん：クラス対抗で紅白歌合戦をしたい。めいすいくん：ギネスに挑戦したらいい。）を聞き、その後、模擬投票を行いました。本物の投票箱や記載台、投票用紙を入れる箱などが用意されて、本当の選挙と同じように子供たちは投票しました。開票も子供たちで行いました。その結果、めいすいくんの「記録に挑戦」が選ばれました。



この出前授業を通して、子供たちはいろいろなことを感じたようです。

- ・一番印象に残ったことは、投票率が低かったことです。私は、18歳になったら絶対に選挙をしなければならないと思いました。選挙に出ている人が言っていることをよく知らないといけなことが分かりました。
- ・最初選挙は、大人がするもので私たちにはまだ早しい興味もありませんでした。でもこの授業を受けて、選挙を少し身近と感じ、18歳になったら選挙に参加しようと思いました。
- ・選挙によって、代表者が決まりその代表者が私たちの暮らしや社会をよりよくすることは、とてもいいことだと思いました。

この授業を通し、6年生は選挙の大切さを学び、多くの子供たちが18歳になったら選挙に行こうという感想をもちました。将来自覚と責任をもって未来を切り開いてほしいと思いました。

危険を予知する力を育てる

生徒指導主事 有澤 義一

今年度、本校では「廊下や階段の右側を安全に歩こう」を生徒指導の年間重点目標の一つに掲げ、子供たちにとって安全な学校づくりを目指してきました。しかし、残念ながら、廊下を走ったり階段の途中から飛び降りたりする子供を見かけ、「危ない！」と大きな声で注意することが時折あります。

以前、私が階段近くの廊下を歩いていた時のことです。突然、階段からジャンプした子供が目の前に現れました。低学年の子供だったので両手で抱き留め、事なきを得ましたが、私ではなく小さい子供だったらどうなっていたことでしょうか。

ところで、子供の交通事故原因で最も多いのは「飛び出し」です。大人であれば、見通しの悪い交差点で、安全確認もせず勢いよく飛び出すような“無謀”なことはとても恐くてできません。これは、「もしかすると、自動車がくるかもしれない。」という危険を予知する能力が備わっているからです。廊下を走ったり階段から飛び降りたりすることが、なぜ危ないのか。「もしかすると…」という危険を予知する力を育てることは、子供たちのかけがいのない命を守る上で欠かせないことです。学校では、廊下や階段の安全歩行を含め、交通ルールの遵守や危険な遊びの禁止について、粘り強く指導して参ります。ご家庭でも、お子さんの行動を見て「危ない！」と感じられた時は、その場で、なぜ危ないのかを考えさせたり、納得できるように話してあげたりしてください。